サービスラーニング個人報告書

社会福祉学部社会福祉学科２年　下家　秀晃
活動先：社会福祉法人　むそう
ゼミ：村上　徹也　先生

【目標】

・利用者さんとコミュニケーションをとための知識や経験をサービスラーニングでの活動から得る。また、サービスラーニングを通して活動先の活動理念や取り組みを理解する。

・お祭りという地域のイベントの中で、むそうと地域コミュニティの接点や、地域社会での存在意義を確認する。また、お祭りで利用者さんがどのような関わりを地域ともっているのか、お祭りに参加するのには、どのような意味が有るのか確認する。

・自身が数年後、福祉に携わる中でどのような心構えで仕事をしていくか、また、実習でどのようなことに気をつけて行けば良いかについて学ぶこと。

【活動内容】

【お祭りの企画・準備について】

◎企画

むそう本部の[生活支援センターあっと]でむそうのスタッフの方々に混ざり会議に参加した。KJ を用いて、むそうとして半田地域のお祭りに参加する意義や理念について話し合った。出てきたキーワードとしては、①地域に住んでいる方々にむそうを知ってもらう、②むそうの活動やむそうで行っている就労移行支援の場（喫茶店などのお店等）で作っている商品を出すことにより、お店のことを知ってもらう機会とする、③むそうの理念共有を図る、④地域とむそうの利用者さんの接点となり得る、⑤むそうの活動の PR、⑥利用者さんの地域での居場所づくりなどが有った。これらのキーワードはお祭りに参加し、活動する中での動機となった。このようにお祭りへの目的意識を確認することは、むそうのスタッフさんと学生の私たちが、理念を共有する意味合いがあった。

◎学生ボランティアの募集

お祭りは、むそうのスタッフさんだけではなくボランティアを募ることで安定した運営を図ることができる。更にむそうが今年の夏に参加するお祭りは、7 月中旬から 9 月の頭にかけて 10 もあり、多くのボランティアが必要だった。私たちは大学生として、同じ学生たちをどのような見出しで募集すれば良いか理解しているはずということで、大学内でチラシ・ビラを配ったり、様々なアイディアを出したりした。

◎お祭りで使う機材、備品・ボランティアの屋台の配置確認、ポップの作成

お祭りの日程とどのお祭りにどのような屋台を出し、機材や備品は何が必要か、ボランティアはどこのどの屋台に何人必要かなどの確認をした。また、お祭りの屋台で使うポップづくりでは、利用者さんや誰が見てもわかるように心がけて作った。このようにむそうの活動ではお祭りに参加するにあたり、運営の細部にまで関わることができた。

【お祭り当日の運営・準備】

◎参加したお祭りの地区（半田市）

・板山地区　板山なちゅ祭り　（８月１０日、８月１１日、１７：００～）

・紺屋街道　ゆかたDE紺屋街道まつり（８月１７日、１５：００～１８：００）

◎板山なちゅ祭り

板山なちゅ祭りは、むそうの障害者就労移行支援の場・拠点のなちゅふぃーるど喫茶なちゅと近くにある板山公民館およびそのグラウンドで開催された。喫茶なちゅでは、①歩の途中で気軽に立ち寄って、「おしゃべりを楽しめる場」、②駄菓子片手にこどもたちが今日の笑顔を語る「たまり場」、③障害のあるスタッフも自信を持って「生き生きと働ける場」、④障害のあるスタッフの生活を支える、を目的として活動している。地域のたまり場で障害のあるスタッフが、ほっとできる空間をサービスし、何気なく生活するその中に障害のある人もいて、共に暮らす時間が流れていく。当たり前の風景に笑顔があふれる喫茶店にすることが目的とされている。板山なちゅ祭りでは、このむそうの喫茶店なちゅでの活動や利用者さんの働きぶりを見てもらうことが目的の一つである。

・会場準備

板山なちゅ祭りでは、かき氷、ラーメンの屋台をだした。かき氷の屋台はテントを張り、かき氷製造機などの機械の運搬、氷を喫茶店なちゅから運ぶという作業をした。ラーメンは「ラーメンカー」という移動販売のできる車で販売した。綿飴の屋台も計画されていたが、当日ボランティアの不足により断念しかけたが、地域の方々が率先してくださった。むそうと地域との結びつきがとても強いことがわかった。

・運営・お祭りが始まってから。

私は、利用者さんの一人とその家族の方々と一緒にかき氷の屋台の手伝いをした。

◎ゆかた DE 紺屋街道祭り

【気づき・学び・課題】

お祭りには利用者さんの家族が来られていて、お祭りに参加することによって利用者さんの働きぶりや社会の中で頑張っている姿を見てもらう機会になっているのだと気付いた。また、「障害のある方たちが地域生活を当たり前に送ることが出来るように・・住み慣れた場所で（地域）で一生涯暮らしていくには、事業所の支援者じゃなく、地域の人たちが彼らの支援者になれたら・・」というむそうの理念にかなっていた。

【今後の目標】

・利用者さんとのコミュニケーション

地域の方々に障害をより理解してもらうにはなにをすべきか学ぶ。半田市のように地域の共同体の結束力が強い地域だけではなく、過疎化が進む共同体の輪が崩れているような山村などの活性化についても学んでいきたい。